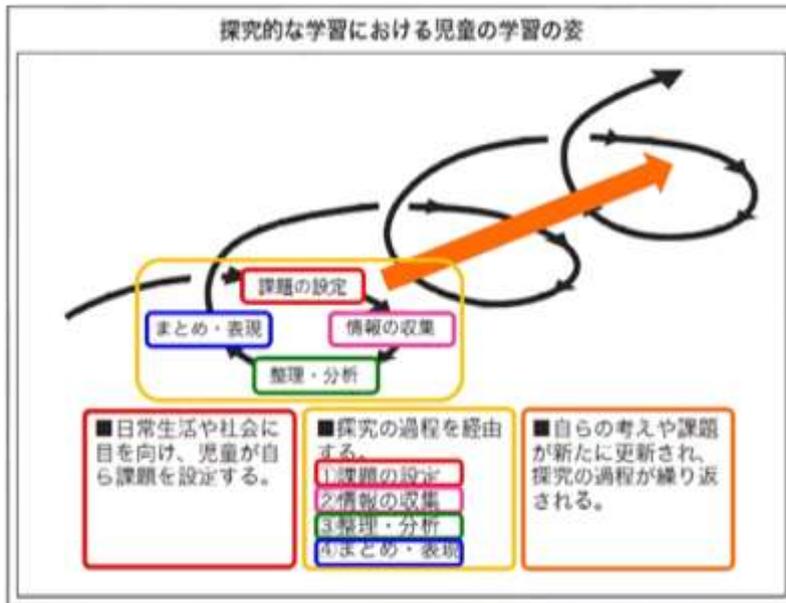


「総合的な学習の時間」を考える ①

小学校では、既に約20年にわたり、「総合的な学習の時間」を時間割に位置付け、児童に「探究的な学習」を指導してきました。本校では、「チャレンジタイム」と名付け、3年生以上の学年で、「環境」「福祉」「地域」など



現代のかつ児童がこれから生きていく社会において「必須」ともいえるテーマを追究していく学習指導を展開してきました。

左は、その「総合的な学習の時間」で必ず引き合いに出される「探究的な学習における児童の学習の姿」と紹介されている図解です。①課題の設定、②情報の収集、③整理・分析、④まとめ・表現という過程をとにかく「繰り返していく」というものです。なぜでしょう…。これを筆者は、「目標をもち、それを追究し、反省し、また、次の目標をもち、追究し…」は、「生きること」そのものであるからだと考えています。繰り返さない状態は、「生きていない」状態だということです。「総合的な学習の時間」は、「生きる力」を身に付ける「根幹」ともいえる時間です。

教科の知識・技能だけを身に付けていさえすれば、よいか

「ノー」と答えさせんばかりの問いですが、「本質」を考える上では大切な問いだと思います。本校のめざす「いきいき べんきょう」も、「発表の回数のため」「成績のため」ではないはず。 「いきる」ためなのです。



2学期末の「乙島っ子」で「いきいき べんきょう」の本質を「いきかた」と説明したのは、こうした背景からです。一方、国が示す教科・領域等の目標に「生き方」を示したものは三つあります。「道徳科」は、「1時間の授業」で考え、「特別活動」は、「集団活動」を通した生き方の追究、「総合的な学習の時間」は、「探究的な学習」を通した追究です。

